

2024年6月20日

ストーリー起点で、未来へと続くブランド体験を生み出す、 空間デザインチーム「場と編集」が始動

株式会社電通（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：佐野 傑）は、ストーリー起点で、未来へと続くブランド体験を生み出す空間デザインチーム「場と編集」を立ち上げ、本日よりサービス提供を開始します。

多くの企業や団体にとって、循環型・持続可能な事業成長を目指すという「総論」には賛同が得られるものの、実際に、株主・顧客・従業員・取引先・地域住民など多くのステークホルダーの意見を調整しながら、そのシフト（転換）を実現する「各論」になるほど合意が難しくなるという課題が存在しています。（例「環境に良い素材の商品に変えたいが、顧客はそのコストアップを受け入れてくれるのか」）

この課題を解決するために、「場と編集」は、人間が意思決定に際し、経済合理性だけでなく、その時々感情の影響を受けて行動したり、自分らしい価値観を表す高価なブランドを大切にしたりする、という行動経済学的な視点に注目しました。「場と編集」はコミュニケーションを戦略的に活用することで、仮に持続可能なサービスや商品が高価であっても、それを選びたいと感じるアプローチを実現していきます。

「場と編集」は、リアルな「場」と「体験」を重視し、ストーリー起点とサステナブルな視点でブランドをデザインする専門チームです。体験の設計においては、「日本らしい価値観」を大切にしています。「草木を愛で、自然と共に生きる」「自然の恵みで、健やかに過ごす」「無駄なく使い、余ったものはお裾分け」「良いものを作り、丁寧に長く使う」「質素なものにも、美と幸せを見いだす」「自分だけ良ければいい、今だけが良ければいいとは考えない」このような価値観は、グローバルで先行する持続可能な社会の実現にあたり「指針」となるものであると同時に、古来日本に根付いており、経済合理性とは異なる「場の力」で多くのステークホルダーの意思決定の「指針」となることが期待できます。

サービス領域となる「場」は、店舗、商業施設、イベント、公園、図書館、ホテル、車両、オフィス、蒸留所など多岐にわたり、その企業や団体が持つ歴史・文化・自然観・伝統などを重視し、それを今の時代にあわせて「編集」します。説明・説得という形ではなく、造形、音、味、香り、手触りなどで感覚的に伝わる状態を理想とします。「場」を中心にした仲間づくり、さらには「場」が完成した後、世の中にどう見せるか（PR戦略）や、コミュニティ（ファン・推し）の構築支援など、構想から実行までを、サステナビリティ、ブランディング、空間デザインのエキスパートが一体となってサポートします。

< 「場と編集」のサービス概要 >



< 「場と編集」メンバーの過去の取り組み事例 >



人を真ん中にした医療・ヘルスケアを未来のコモンセンスにするインキュベーション施設 慶應義塾大学 CRiK信濃町



富山の豊かな自然や文化を鮮やかな模様で表現「富山もよう」



文化庁主催によるユネスコ無形文化遺産への和食の登録にもつながる展示を企画/設計 パリ 魯山人展 L'art de Rosanjin

以上

【リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通コーポレートワン ブランディングオフィス 事業広報部

田中、宮田、葦山、田畑

Email : jigyokoho@dentsu.co.jp

【事業に関する問い合わせ先】

株式会社電通 「場と編集」チーム

住田、南木、小柴、奈雲、庄形

Email : sus.consult@dentsu.co.jp